

気候変動リスク管理に関するユース対話ワークショップ

—持続可能性から考える気候変動対策、バイオマス作物を事例として（仮）

昨年 2015 年の 12 月 COP21 でのパリ協定でも、国際社会が掲げる「2°C目標」が明記され、さらには 1.5°C未満に向けた努力についても言及されました。2°C目標達成シナリオには、世界全体での正味の排出量を今世紀末には負にするグローバルな、ネガティブ・エミッションを達成することが IPCC 報告書のシナリオなどで示されています。実際にネガティブ・エミッションとしてとりうる技術のひとつとしてバイオエネルギーCO₂回収貯留（BECCS）と呼ばれる方法（植物をエネルギー源として利用する際に排出される CO₂を回収し、地中深くに貯蔵すること）が知られています。そこで今回のワークショップでは、最新の研究成果をもとに、この問題について理解を深め、また、気候変動やバイオエネルギーだけでなく、総合的な社会の持続可能性の観点から問題を取り上げ、研究者とユースのみなさんが一緒に考えていくためのワークショップを開催します。

ワークショップの概要

日時：2016年2月25日(木)26日(金)

場所：山梨県甲府市（山梨県防災新館、クア&ホテル、山梨県立青少年センター）

主催：東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、国立研究開発法人国立環境研究所(NIES)

（環境省環境研究総合推進費 戦略研究プロジェクト S-10 地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究（ICA-RUS プロジェクト <http://www.nies.go.jp/ica-rus/>）の一環として実施されます。）

目的：

- ・気候変動リスクとその管理戦略に関する科学的知見を用いたステークホルダーとの伝達・協働手法構築にむけた知見（視覚化、対話の方法、評価の方法など）を得ること。
- ・Negative Emission（Bio-crop 導入）に関する土地利用シナリオ間の違いを検討し、グローバル&長期的な結果を持続可能性の観点で総合評価する手法を構築、必要なデータや解析についての社会のニーズを知見として得ること。

参加者：

- ・気候変動問題に関して活動/研究をする大学（院）生 12-15名程度
「現在、20代でこれまで COP に現地で参加、もしくは COP に関する活動や研究に携わったことがあり、気候変動の国際交渉について基本的な知識がある人」
- ・S10（ICA-RUS プロジェクト）関連の研究者 10名程度
- ・山梨県でバイオマス関連の活動をする自治体、NGO 等関係者数名（調整中）

問い合わせ：東京大学 IR3S、青木(eri@ir3s.u-tokyo.ac.jp)

スケジュール概要（案）：

1日目（2月25日）

午前—（10時～12時@山梨県防災新館予定）

- ・山梨県におけるバイオマス利用について現地専門家からの情報提供と対話

講師 NPO 法人道志・森づくりネットワーク 大野 航輔氏

現地バイオマスエネルギー導入事業者など（調整中）

午後—（13時～18時@山梨県防災新館予定）

- ・気候変動リスク下におけるバイオマス利用と土地利用モデルシナリオについての、研究者と参加者の双方向型会合

講師 S10 研究代表者 江守正多氏（NIES）、山形与志樹氏（NIES）、他 S10 関連研究者

- ・気候変動リスク下における多様な価値判断に関するロールプレイング

ファシリテーター 青木えり（IR3S）

夜間—（20時～21時@ホテル内会議室予定）

- ・参加者の気候変動リスク管理に関わる活動/研究の共有と、気候変動リスク管理に関わる論点に関するディスカッション

2日目（2月26日）

午前—（9時～12時半@山梨県青少年センター予定）

- ・多様な基準での気候変動リスク下のシナリオ評価にむけた対話グループワーク

午後—（13時半～17時@山梨県青少年センター予定）

- ・（継続）多様な基準での気候変動リスク下のシナリオ評価にむけた対話グループワーク

- ・対話ワークショップ全体へのフィードバック

- ・気候変動リスク管理をどう考えるか、対話会合

環境研究総合推進費 S-10 プロジェクト（地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究：愛称 ICA-RUS プロジェクト）では、制約条件、不確実性、リスク管理方策、社会の価値判断を網羅的に考慮したうえで、地球規模での気候変動リスクへの対処方法の選択肢を提示し、さらに、国際的合意形成への寄与、日本の交渉ポジション・国内政策立案の支援、国民の気候変動問題への理解の深化に貢献することを目指しています。